

北海道次世代半導体産業立地推進本部第3回本部会議

令和5年10月5日(木) 17:00~17:15

本庁舎3階 テレビ会議室

(土屋副知事)

これより、「北海道次世代半導体産業立地推進本部第3回本部会議」を開催いたします。それでは、さっそく議事に入ります。まず1番、「関連事業の取組状況等」について、関係の部長から、説明をお願いします。

(中島部長)

それでは資料1に基づき、「関連事業の取組状況等」について説明いたします。

今年度、道では、次世代半導体製造拠点の本格稼働を見据え、製造・研究・人材育成等が一体となった複合拠点の実現に向けまして、新規事業として次世代半導体産業集積促進事業を措置いたしまして、今後、北海道半導体関連産業振興ビジョンを年度内に策定いたしますほか、道民向けセミナーの開催による理解の促進や本道の立地優位性のPRなどに取り組み、ラピダス社立地の効果を全道に波及させ、本道経済の活性化につなげてまいりたいと考えております。

次のページをご覧ください。

次世代半導体産業集積促進事業の今後の取組についてでございますが、半導体関連産業の集積に向けて、10月に名古屋、12月に東京で開催されます展示会に出展いたしまして、ラピダス社が立地を決定した本道の立地優位性をPRいたします。

それから次、道内企業の参入促進に向けましては、11月にアクセスサッポロで開催されますビジネスEXPOに出展いたしますほか、開催時期は調整中でございますが、道内企業向けセミナーを札幌市内で開催いたします。

それから道民の皆様方への理解促進に向けましては、11月以降順次、道内6カ所で半導体への理解を深めていただくセミナーを開催いたしますほか、人材育成の取組といたしましては、道立高校やMONOテクでの出前講座、若年層向け半導体アニメ動画を作成し、自宅にないがらにして、色々な科学体験ができる「サイエンスパークオンライン」に掲載することとしております。

次のページをご覧ください。

関連事業といたしまして、9月21日に開催いたしました、地域企業の先端技術人材確保・育成等支援事業の取組についてご説明いたします。

道内ものづくり企業における先端技術を有する人材の確保、育成及び職場定着を図るため、ノーステック財団が道の補助事業を活用いたしまして、半導体産業の概要から製造工程をテーマに、製造業等で働いていらっしゃる方々を対象として、半導体人材育成講座を開催いたしまして、参加していただいた方々からは、大変参考になったとの声が多かったと伺っております。このほか、先般幹事会で半導体関連産業の振興にかかります、これまでの取組状況などをまと

め、共有させていただいておりますけれども、このたび内容を更新いたしまして、末尾に添付した参考資料のとおり改めて皆様方に配付させていただきますので、地域や関係者の方々へのご説明に活用いただければと思います。

また、配付資料はございませんが、今後、取りまとめられる経済対策に、次世代半導体製造拠点の整備や関連産業の集積に向けた支援などが盛り込まれますよう、去る8月に半導体に関する連携協定を締結した熊本県とも連携いたしまして要望すべく、調整を進めてまいります。

(次世代社会戦略監)

4ページ目の科学技術ふれあい推進事業についてご説明いたします。

この事業では、子ども達の科学技術への興味・関心を深めることを目的として、科学体験イベント「サイエンスパーク」を毎年開催しております。今年度は、北大から会場の提供、運営への協力などを得て、8月5日に開催したところでございます。

このイベントでは次世代半導体についてもPRすることとしまして、会場内の展示ブースにおいて、ラピダスの千歳市進出等に関するパネル展示や次世代半導体に関する体験コーナーを設けました。参加した子ども達へのアンケートも実施しまして、半導体に関しましては、「展示を見る前から半導体に興味を持っていた」との回答が約10%でしたが、展示を見た後は、新たに60%は「展示を見て半導体に興味がわいた」との回答がありました。また、子ども達のうち、34%が展示を見て「千歳市に半導体工場ができることを知った」と回答しており、「展示を見る前から知っていた」とする約20%と加えますと、過半数の子ども達にラピダスの進出を知っていただくことができました。このイベントを通じ、子ども達ももちろんですが、同伴された保護者の方も含め、半導体に関する興味や関心を高めることについて、一定の効果があったと考えております。説明は以上です。

(土屋副知事)

ありがとうございました。それでは、議事2の「次世代半導体製造拠点への水の供給」について、経済部長から説明をお願いします。

(経済部長)

資料2に基づきまして、「次世代半導体製造拠点への水の供給について」ご説明いたします。

半導体製造に必要な不可欠な水の確保に向けましては、水源候補地を検討するプロセスにおきまして、専門的な見地からのご意見を幅広く聴取するため、有識者懇話会を合計3回開催しております。製造拠点の水源として考えられる8箇所の候補地を抽出した上で、特に自然環境に配慮が必要な箇所などを除外することで、千歳川と苫小牧地区工業用水道の2案に絞り込み、環境影響や協議・調整等の観点で整理しながら、総合的な評価を事務局案としてご報告したところ、有識者の皆さま方からは「苫小牧地区工業用水道案がベター」とのご意見をいただいたところでございます。

この度、道といたしまして、総合的な評価の内容や懇話会のご意見等を踏まえまして、苫小牧地区工業用水道を水源候補地として決定し、関係機関と具体的な協議を進める方針を固めたところでございます。

今後の対応といたしましては、北海道企業局と連携しながら、ラピダス社や千歳市、国などと必要な調整・検討を迅速に進めますとともに、予算措置、本工事着手に向けて、送水ルート of 概略検討や概算事業費の算出等を早急に行ってまいります。

(土屋副知事)

ありがとうございました。本日の議事について、ご意見、あるいはご質問等あればお願いいたします。どなたかございますか。はい、天沼公営企業管理者、よろしく願いいたします。

(天沼公営企業管理者)

ただいま、道として、ラピダス社が計画しております次世代半導体の量産化に向けて必要となる水の供給につきましては、苫小牧工水を活用する方針とのことでありまして、道営工水事業の経営責任者として真摯に受け止めているところでございます。企業局といたしましては、ラピダス社をはじめ、国や市町村、関係機関との協議などに、経済部と連携して取り組むとともに、必要となる組織体制の強化や予算措置などに関し、早急に検討を進めてまいります。いづれにしましても、2027年の供給に向けた限られた時間の中で、何よりもスピード感が重要であると認識しておりまして、今後とも、様々な課題への対応につきまして、関係部局のお力添えが不可欠となってまいりますので、ご協力を頂けるようお願いを申し上げます。以上であります。

(土屋副知事)

ありがとうございました。公営企業管理者、よろしく願いいたします。このほか、各部・振興局等からご発言あればお願いいたします。

それでは、知事からお話をお願いいたします。

(鈴木知事)

去る9月1日、西村経済産業大臣をはじめ、国内外の半導体関連企業など関係者のみなさまのご列席のもとで、ラピダス社の次世代半導体製造拠点の起工式が滞りなく執り行われ、建設工事がいよいよ本格化をいたしました。その機会を活用して、私自身、大手半導体製造装置メーカーを始め、国内外の半導体関連企業、そして研究機関のトップの方々と意見交換をさせていただきました。北海道に対する関心の高まりを意見交換のなかでも実感したところであります。それを裏付けるように、最近、世界的な半導体製造装置メーカーのアプライド・マテリアルズ、そしてASML、こちらの道内への拠点開設の動き、これをはじめとして、北海道への立地に向けた動きが見られるようになってまいりました。

こうした動きをさらに力強く、確かなものとするためには、何よりもまず、ラピダス社が目指す2025年のパイロットラインの稼働、2027年の量産開始というスケジュールの達成、これが重要であります。先ほど、経済部長から報告がありましたけれども、道としては、量産開始に向けた水の供給方法として、苫小牧地区工業用水道を水源候補地として決定し、ラピダス社や千歳市、国などと具体的な協議を迅速に進めていくこととしたところであります。直ちに関係機関への丁寧な説明と調整を進めるとともに、必要な体制等を整え、整備に向けた準備に着手するよう指示をいたします。

9月27日、政府は「新しい資本主義の推進についての重点事項」の中で、先端半導体の製造基盤の更なる拡大を進めるとの考えを示しました。ラピダス社の次世代半導体製造拠点の整備はもとより、道が目指す製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点の実現は、こうした国の考えに合致するものであります。その実現に向けて必要な国の支援策が経済対策に盛り込まれるよう、半導体に関する連携協定を締結した熊本県とも連携しながら、時機を逸することなく国に要望できるよう、準備を進めるよう指示をいたします。

道としては、道民の皆様のご理解と共感を得ながら、この国家プロジェクトを成功させ、複合拠点の実現がもたらす効果を全道に波及し、本道全体の経済活性化と持続的発展につなげていかなければなりません。

来年度に向けた政策全般の検討については、先に指示をしたところではありますが、本部員においては、地域の皆様、そして事業者の方々のニーズや懸念を丁寧に把握し、その実情を踏まえながら必要な政策を検討するよう指示をいたします。私からは以上です。

(土屋副知事)

ありがとうございました。知事からご指示のあったことについて、本部員は必要な対応をお願いいたします。

以上をもって、第3回本部会議を終了いたします。お疲れ様でした。